

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1819号 2006年03月20日(月)

《 dollar decline might be short 》

今週は火曜日が休みの短縮週でもあり、簡便に行きましょう。

焦点は先週の後半から見られたドル安、それに全般的円高傾向が、どこまで続くかです。ドル安は対円ばかりでなく対ユーロでも進んで、先週末のユーロ・ドル相場は場中に1.22ドルを付け、引けも1.2185ドルと久しぶりのユーロ高値で引けた。その面でドル安である。一方円は、対ドルばかりでなくユーロやオージーを含む高金利通貨全般に対して上昇しており、先週後半の為替市場の動きを総括すれば、ドルも安いがそれよりも円高の動きが目立ったと言える。

まずドル安は何を起因としているのか。フランスの政治情勢の混迷を見ても、ヨーロッパサイドにはこれといった目立つユーロ高要因はない。あるとすれば、長くユーロが低迷してきたという点か。日本サイドには金利上昇懸念があるが、全般的なドル安の原因は恐らくドルサイドにあると思われる。それは、米商務省が先週火曜日に発表した昨年一年間の米経常収支の赤字額でしょう。私でも「やっぱりちょっと大きい」と思いました。他の市場参加者をこの数字を気にした可能性がある。ウォール・ストリート・ジャーナルの記事は、このニュースを以下のように報じている。

「The Commerce Department reported Tuesday that the current-account deficit rose 20.5% to \$804.9 billion during 2005, an all-time high, from \$668.1 billion in 2004. The deficit widened to \$224.9 billion during the fourth quarter, up 21.3% from a revised \$185.4 billion in the third quarter. The current account combines trade of goods and services, transfer payments, and investment flows.

The 2005 current-account deficit was a record not only in dollar terms but also as a percentage of the total economy, at 6.4% of economic output, up from 5.7% in 2004. The fourth-quarter gap amounted to 7.1% of gross domestic product, which was reported at \$12.760 trillion in current dollars for the three months ending Dec. 31. The third-quarter gap represented 5.9% of GDP. 」

つまり、昨年一年間のアメリカの経常収支の赤字は一昨年に比べて20.5%も増加して8049億ドルになった。今年は1兆ドルに届こうという数字である。また昨年一年間

の赤字の対 GDP 比は、6.4%に達したという。2004年は6681億ドルの赤で同5.7%だったのが、みるみる膨らんでいるという印象がするが、実際その通りのようだ。

なぜなら、昨年第四・四半期の数字を見ると、赤字は2249億ドル(2004年同期は1854億ドル)に達し、これは対 GDP 比で7.1%に相当する。つまり赤字の出方が対 GDP 比で見て期を追うごとに加速しているということである。

この数字を見たら、119円に乗ったもののその後上がりきれなかったドルが貿易赤字の数字を見たことを機に「一端は下がる」という方向になるのは自然だったといえる。この膨大な赤字を埋め合わせ、国内投資と消費を維持するためにはアメリカは毎週100億ドルの新規資金の調達を必要とするという。そう聞くと、ドルの脆弱性というフレーズが私だけではなく頭に浮かぶだろう。しかもドルがちょっと高い水準にあるときはそうだ。

全般的円高をもたらした要因は二つあると思われる。一つは期末特有の資金の流れと、もう一つは量的金融緩和解除後のゼロ金利解除の時期とペースを巡る思惑。期末資金決済としては外貨に転換される部分も当然あるが、利金送金や日本企業の利益送金などの日本への資金回帰の部分も相当あると見られ、そうした円買いが先週は出たと見られる。ゼロ金利解除を巡る思惑については、今後も引き続きその時その時において市場を揺さぶるであろう。しかし先週も述べたとおり、当面の金利の上昇ペースは依然としてアメリカに優位であると考え、ドルが安値になったときには買いが入ると考える。

こうした諸点を勘案すると、モメンタム的にはもうすこし期末を控えて円の高値をトライする可能性が今の市場にはあると思う。しかし、安いドルを買い向きの向き、高くなった円を売りたい向きは多く、対ドルばかりでなくその他通貨に対してもだが、円高の傾向が中期的に続く可能性は低いと筆者は考える。

円高は行って113円台か。ユーロの上げもそれほど続くと考え理由はない。来週からはフランスの政情不安に市場の関心が向くと考えられる。ドルはもう少し安値を試した後、再び上値を追うと考える。

今週の主な予定は以下の通りです。

3月20日(月)	2月コンビニエンスストア売上高 2月コンファレンスボード景気先行指標総合指数 胡錦濤中国国家主席、日中友好協会会長・平山郁夫会長、日本貿易促進協会・橋本龍太郎会長らと会談 (19~21日の間に・北京)
3月21日(火)	東京市場休場(春分の日) 米2月生産者物価
3月23日(木)	2月貿易収支 米2月中古住宅販売
3月24日(金)	1月第3次産業活動指数

米 2 月耐久財受注

米 2 月新築住宅販売

《 have a nice week 》

週末は凄い風でした。たまたま秋葉原にいて、この男の私が体をもっていかれそうになりました。最近では経験のない強風でした。

日韓戦は興奮しましたね。前半ちっとも点が入らずにいやあな雰囲気だったのですが、福留の一振りが懸念を振り払ってくれた。韓国もアメリカが敗れて日本が三度目の対戦相手になったときには嫌な雰囲気になったのではないのでしょうか。どう考えても力が拮抗しているチームが3連敗・3連勝になることは滅多にない。

それにしても、ピッチャーの勝利だったような気がする。この試合の上原がそうでしたが、これまでの試合でもピッチャーはよく投げたと思う。課題は打線でした。これまでの試合でも、松中に一本出ていれば勝てた試合があった。その松中もあの7回の二塁打の時には二塁の塁上で気持ちをはき出していた。きっと自分でも歯がゆかったのでしょう。韓国はもうちょっと兵役免除の発表を遅らせておけば良かったかも知れない。やや目標達成ムードがあった。

まあでもアジアから出て行くなら日本でしょう。キューバには5分以上の闘いが出来るような気がする。キューバにはパワーはあるが、きめ細かさはない。勝てる相手だと思う。日本は韓国のような広場に何万の人間が繰り出して応援するといったことはない。しかし気持ちは一つで日本チームを応援していますから。

それでは、今週は日本野球チームの奮闘を祈りながら良い一週間を始めましょう。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》